山口県地域連携教育通信

山口県教育庁地域連携教育推進課

ファミリン NEWS

2023.9.27
No.2

「家庭の元気応援キャンペーン」
マスコットキャラクター「ファミリン」

地域連携教育推進課
Web ページ
二次元コード

“島じゅうキャンパス”チャレンジ＆エコツアー

当課では、平成５年度から昨年度まで、次代を担うチャレンジ精神にあふれるたくましいリーダーの育成及び思春期の子どもへの多面的な支援をめざして、十種ヶ峰を舞台に長期自然体験活動「心の冒険・サマースクール」を実施してきました。

今年度は、舞台を周防大島に移し、サマースクールの要素と、地域の特色を生かし自然環境等について体験しながら学ぶエコツアーを組み合わせた「“島じゅうキャンパス” チャレンジ＆エコツアー」（小学５年生～中学生対象・６泊７日）を実施しました。

子どもたちは、バックパッキング[注1]やテント泊、ソロ、マリンアクティビティ等の活動の中で直面する様々な課題に向き合い、乗り越えていくことを通して、自信を深めるとともに、心から信頼し合えるチームへと成長していきました。

衣食住を背負って瀬戸内アルプスをバックパッキング		野外調理
ソロ（一人で振り返る時間）	マリンアクティビティ	地元住民と海浜清掃

【参加者からの感想】

○　私はソロの時間に一人でリーディング集[注2]を見ていた時に、「こんな時どうする自分が好きなのかを考えればいい」という言葉を見つけました。私は次の日の登山でこの言葉を思い出して、「自分かあ、自分ね…。頑張る自分かなあ。辛い時でも進める自分が好きだなあ…」と思いながら登山をしていました。ファイナルツアーでは、「苦しいなあ、苦しいなあ」と思ったけれど、そのことを思い出して、「大丈夫、頑張る自分が好き」と思って登り切ることができた時、「ああーー！！頑張ってよかったなあー。やっぱり頑張るって良いことだなあー！」と思いました。

○　始めの頃は知らない人ばかりでどうなるかとても不安だったけれど、今では誰とでも話せるくらい仲良くなりました。知らない友達と話せた時はとてもうれしかったです。また、もっともっと知らない人と仲良くしていきたいと思います。

注１：衣食住に関する物をザックに入れて目的地まで歩く活動　　注２：プログラム用に編集した詩集

異校種間での熟議

県では、学校運営協議会や地域協育ネット協議会における「熟議」の導入及び活用の促進を図るため、「熟議」サポート事業を実施しています。この事業を活用して熟議を実施した事例を紹介します。

長門市立日置小学校
神田小学校
日置中学校

■テーマ…日置っ子の９年間のゴールの姿を考えよう！
■参加者…児童生徒（小５～中３）、教職員、地域住民、保護者
　中学生が生徒総会で話し合った「日置っ子の現状」をもとに、熟議を行いました。中学生が各グループの進行を行い、小学生からは中学生のどんな姿に憧れるのか、大人からはどんな 15 歳になってほしいか、９年間でどんな力を付けてほしいかなどの意見が出され、活発な熟議となりました。今後は、熟議で出された意見をもとに生徒会がまとめた案を学校運営協議会に提案し、学校・地域連携カリキュラムに反映していく予定です。

下関市立豊浦小学校
長府中学校
県立長府高等学校
豊浦高等学校

■テーマ…社会に出たときのために、今身に付けておきたい力とは？
■参加者…代表児童生徒、教職員、地域住民、保護者
　小学生は学級でテーマについて話し合ったことをもとに、タブレット端末を活用しながら自分の意見を発表しました。また、中学生や高校生、大人からは、それぞれの経験や立場をふまえた意見が積極的に交わされました。参加した中学生からは、「必要な力は１つではない、自分自身の行動を変えていきたい」といった力強い感想が聞かれ、充実した熟議となりました。

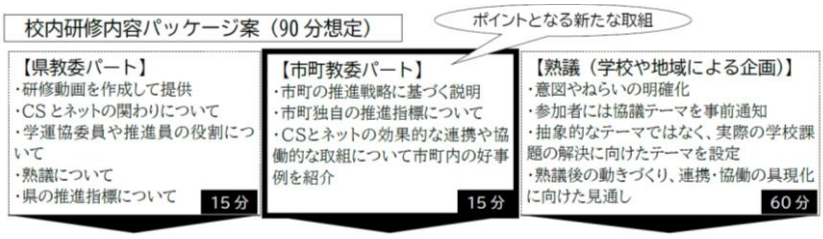
ベースアップ研修

今年度より県教委と市町教委が連携し、小・中学校で「ベースアップ研修」を実施しています。この研修は、教職員及び学校運営協議会委員が県・市町の地域連携教育の方向性を知り、ともに熟議等を行うことを通して、やまぐち型地域連携教育の意義やよさを感じるとともに、当事者意識や学校運営への主体的な参画意識を高めることを目的としています。

【実施した学校から寄せられた感想】

○　今一度参加者が地域連携教育の意義やよさを再確認することができた。その上で「どのような子どもを育てたいか」について熟議を行うことにより、コミュニティ・スクールの目的や三者（学校・家庭・地域）が向かうベクトルを一致させることができたことは大きな成果だった。

○　県・市の地域連携教育について参加者一同理解を深めるとともに、視点を同じにすることができ、大変有意義だった。また、熟議の中で学校運営協議会委員の方々が、学校との連携についてそれぞれ思いを語り、教員の意識の変容が随所に見られた。「地域の子どもたち」を地域と学校とが対等な関係性で育むというベースアップができた。



県立学校の取組を紹介します

令和5年8月22日(火)に、県立下松工業高等学校と徳山総合支援学校高等部の交流会が行われました。この取組は令和4年度から始まり、昨年度はコロナ禍の影響もあり、オンラインでの交流となりましたが、本年度は、高校の吹奏楽部(14人)が、総合支援学校の高等部(56人)を訪問して、「演奏と打楽器体験を通じた音楽交流会」を行いました。

交流会では、高校の吹奏楽部の生徒が進行係として全体を取りまとめました。演奏曲目は、『マーチ　ブルースカイ』『アイドル』『愛は勝つ』の3曲でした。演奏に合わせて、総合支援学校の生徒が自然と手拍子をするなど、会場が一体感に包まれました。特にYOASOBIの『アイドル』では最高に盛り上がりました。

演奏終了後は、ティンパニー、ドラム、大太鼓、民族打楽器といった、演奏しやすい打楽器を使って互いに交流を深めました。最初はお互いに緊張していましたが、徐々に緊張もほぐれ、活発な交流会となりました。

交流会が終わり、参加した高校の生徒からは、「緊張したけど良かった」「楽しかった」といった声が聞かれました。総合支援学校の生徒は、高校の生徒から丁寧に演奏方法を教えてもらったことで打楽器に興味を持ち、積極的に学ぶ機会となりました。見学に来られた保護者や教職員も、日頃の姿と異なる生徒たちの様子を見て感激しておられました。また、参観された下松工業高校の卒業生からは、「両校は昔からボランティア活動を通じた関わりがあり、今後も継続した取組にしてほしい」など、両校のこれまでの交流と今後への期待についてお話をいただきました。

参加した両校の生徒たちにとって、貴重な学びが詰まった一日となりました。

活動の様子です。

10月は“やまぐち家庭教育支援強化月間”です

山口県では、県民の家庭教育支援に対する認識を深めるため、学校や協賛企業・団体等による取組の促進や、保護者向けリーフレット「夢をはぐくむ家庭の元気」の活用による「家庭教育5つのポイント」の周知等、「家庭の元気応援キャンペーン」を全県的に展開しています。特に、10月を「やまぐち家庭教育支援強化月間」として定め、行政と地域社会全体が一体となって、家庭教育の重要性の一層の周知を図り、保護者と子どもを取り巻く諸問題に対する社会的関心を高めることを目的として、各種啓発事業を行っています。

家庭の元気応援キャンペーンのスローガン

「早寝早起き朝ごはん　本を読んで外遊び　みんな仲良く今日も元気！」

保護者向け「夢をはぐくむ家庭の元気」リーフレット

「家庭教育5つのポイント」

① 基本的な生活習慣を身に付けましょう
② 家庭での学習習慣を身に付けましょう
③ ルールを守りマナーを身に付けましょう
④ 家族のふれあいを大切にしましょう
⑤ 地域でいろいろな体験活動をしましょう

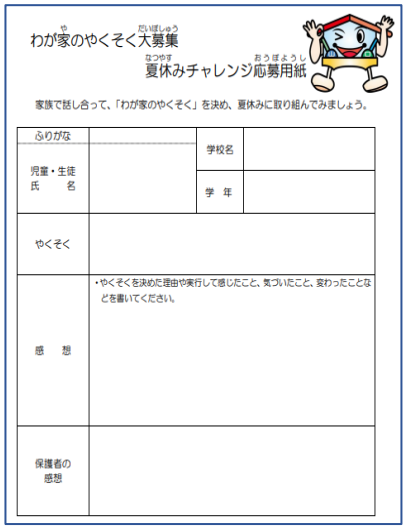
「やまぐち家庭教育支援強化月間」啓発活動の一例

○家庭の元気応援コーナーの設置

県庁エントランスホール、県児童センター、県立図書館に「わが家のやくそく」など家庭での実践等を掲示

○「家庭の元気応援キャンペーン」賛同団体・協賛企業による取組

ノー残業促進週間、親子読書週間、食育指導など（やまぐち子育て応援企業　955 社）



わが家のやくそく大募集
夏休みチャレンジ応募用紙

家族で話し合って、「わが家のやくそく」を決め、夏休みに取り組んでみましょう。

ふりがな		学校名	
児童・生徒氏名		学年	
やくそく			
感想	・やくそくを決めた理由や実行して感じたこと、気づいたこと、変わったことなどを書いてください。		
保護者の感想			

わが家のやくそく　応募用紙

「やまぐち家庭教育支援強化月間」家庭の元気応援　展示コーナー

「わが家のやくそく」の応募作品の一例

「『ありがとうリレー』やさしくされたらやさしくする」、「1 日に 1 時間は家ぞくタイム」、「家族と交わすあいさつを大切にする」、「1日ひと笑い」、「1 日1回家のお手伝いをする」

「家庭の元気」について考える機会にしましょう。